

後一爲妙とは被_レ判_テ藏通別の三教をは麤教と簡_ビ、後一をは妙法と被_レ選_テ取_ル候ども、此時もなほ爾前權教の當分の得道を許し、且つ華嚴等の佛慧と法華の佛慧とを令_テ等_カ、只今の初後佛慧圓頓義齊等の與の釋を被_レ作_レ候也。雖_モ然_ト約部の時は一代の教を五時に分て當_ニ五味_ニ、華嚴部・阿含部・方等部・般若部・法華部と被_レ立_テ、前四味爲麤、後一_ニ爲妙と判_シて、奪の釋を被_レ作_レ候也。然_ハ者奪の釋に云_フ、細人麤人二俱犯過從過邊說俱名麤人立_テ了_ヌ。此釋の意は華嚴經にも別圓二教を説て候間、圓の方は佛慧と被_レ云_フ也。方等部にも藏通別圓の四教を説候間、圓の方は又佛慧也。般若部にも通別圓の後三教を説て候間、其も圓の方は佛慧也。雖_モ然_ト華嚴は別教と申_ス惡物を連_レて説候間、惡物に連_レたる佛慧なりとて被_レ簡_ナり。方等の圓も前三教の惡物を連_レたる佛慧なり。般若の圓も前二味、互せものを連_レたる佛慧なり。然_ル間佛慧の名は雖_モ同_ト、過邊に從て麤と被_レ云_フ、わるき圓教の佛慧と被_レ下_サ候也。依_テ之_ニ四教にても眞實の勝劣を判_ズる時は、一往_ハ三藏名爲_ニ小乘_ニ、再往_ハ三教名爲_ニ小乘_ニ釋_シて、一往の時は二百五十戒等の阿含三藏教の法門を總_ジ小乘の法と被_レ簡_シ捨_テども、再往の釋の時は三藏教と、大乘と云_フる通教と、別教との三教皆小乘法と、本朝の智證大師も法華論記と申_ス文を作て被_レ判_シ釋_セ候也。次に絶待妙と申

①簡=嫌 ②當五味=五味に配し ③[を]- ④[立テ了ヌ]- ⑤論=經

は開會かいえの法門にて候也。此時は爾前權教とて嫌きらひ被レ捨所すつじよの教を皆法華の大海に收入しゆいるゝ也。隨て法華の大海に入ぬれば爾前の權教とて無な被レ嫌者きら也。皆法華の大海の不可思議の徳として、南無妙法蓮華經と云、一味にたゞきなしつる間、念佛・戒・眞言・禪とて別の名言を可き呼出す道理かつて無ななり。隨て釋しやく、諸水入海同一鹹味、諸智入如實智失本名字等釋しやくして、本の名を一言も不ふ可き呼顯ひ被レ釋候也。世間の天台宗は開會の後には相待妙の時斥被捨所きりひんすつじよの前四味の諸經の名言を唱なるも、又諸佛諸菩薩の名言を唱なるも、皆是法華の妙體にて有也。大海に入いる程こそ各別の思なりけれ。大海に入いて後に見れば日來惡にくし善よと斥しりぞひ用ひけるは大僻見にて有けり。被レ斥しりぞはるゝ諸流も、用ひらるゝ冷水も、源はたゞ大海より出たる一水にて有けり。然しかば何水と呼たりとて、ただ大海の於に一水ニ別々の名言をよびたるにてこそあれ各別々々の者と思てこそ過はあれ只大海の一水と思て何をも心に任まかせて有縁に隨て唱な持つに不ふ可き苦くとて、念佛をも眞言をも何をも任まかて心持しんぢ唱ななり。今云い、此義は與て云時はさも可き有歟と覺れども、奪うばて云時は隨分の墮地獄の義也。其故は縦たひ一人如ごとく此得意、何をも持もち唱なるとても、此心子しんしを不ふ得と時は、只例の偏見偏情にて持もち唱なれば、一人成佛するとも萬

①〔智〕-①② ②惡し善=よしわるし③ ③斥=嫌④* ④心子=心根⑤